

## 第13回 「URUZO！」WG 議事録

日時：2018年10月29日 19:15～21:00 場所：ふれあい歯科ごとう

出席：五島先生、板垣先生、不二（明治）、鈴木（ヤヨイサンフーズ）、三好（アサヒグループ食品）、藤崎（日本介護食品協議会）、的場（ハウス食品）、木田（マルハニチロ）（敬称略）

### ■第3回タベマチフォーラムの取組テーマ検討

第2回タベマチフォーラムでは介護食を常食材料として利用したレシピを単身・家族世帯別に提案。  
来場者からの反応は良く、問い合わせもあり。

- ① 3/24(日)10時～13時で百人町にある特養「けやき園」で「タベマチまつり」を企画。  
在所している高齢者や障害者はもちろん、周辺のアパート住人も集めたい。  
新食研と住人との接点が無く、初めての試み。成功すれば、定期的な開催を検討。  
このイベントで、新食研で6つブースを確保。講座も実施予定。  
介護食の試食やレシピ集の提供など、実際に触れてもらう機会を検討（みんなが「食べられる」ということを広めたい）。  
水道や電源など簡単な調理スペースあり。保健所には今後確認。  
12月末を目途に出欠を回答。
- ② 薬局の栄養士が集まって勉強会を実施。参加者は7名。  
現場では、本来の栄養士の業務ではなく、イベント事務的な業務（コスメ、レセプト、品出し）などに従事。  
→介護食のスペシャリストとして教育できれば面白い。
- ③ 簡単な咀嚼力テストとUDF区分の相関チャートの構築（五島先生をお訪ねすることとなった協議会本来の動機）。  
→どんな人にUDFが必要か使用機会のきっかけを創出。  
何をどのレベルの人に食べさせたらいいか、わからない人が多い。  
せんべいテストのような、咀嚼回数によるレベル化を図る（エビデンス化を図る（デイサービスの利用者を対象に）。先生方に学会発表いただくなど）。  
→この実験のデザイン（計画）を何か考えてみるか？（URUZO！のテーマ）  
\*せんべいテスト=3回食べて咀嚼回数の平均でUDF区分を判別するなど。  
妥当性を出すのには、時間を要する。
- ④ 障害者への対応について。  
新食研でも障害者NPOとの接点あり、話を聞くことは可能。  
支援学校などから介護食の問い合わせもあるが、普及拡大には繋がっていない。  
障害者の方の在宅における食事の情報が少なすぎるため、実態を把握できていない。→情報収集？  
まずは、タベマチまつりで介護食を試してもらい、その反応をみて今後の進め方を検討。  
「介護食チャレンジ」（高齢者、障がい者、etc…）

## ●今後の検討事項

③の咀嚼力テストとUDF区分の相関性について、議論を進める。

(せんべいテストの回数による食べられる食事)指針を作ることで、消費者が介護食を買いやすくすることを目指す。

まずは、喫食しやすいおやつ類(舌でつぶせる・かまなくてよい)から始める。

<この 2 つがテーマに含まれるか>

- ・現在の食べる力を維持するための食事を案内
- ・食べられなくなった方に合った食事を案内

## ■次回予定

第 14 回URUZO ! 12 月 11 日(火) 20 時 15 分

議事録作成者 マルハニチロ(株) 木田 恭太

議事録確認者 URUZO !